



文化芸術活動の促進と文化協会の役割

鈴木 啓太郎 議員

旧文化団体連合会など文化活動参加者を広く招き入れていく考えは。

文化協会は市内で活動する団体個人に幅広く加入を促進している。市も未加入の個人や団体等への関わりを持つことの必要性は認識している。今後も文化協会と連携していく。

公共交通体系の抜本的見直しを

下福岡、水宮、仲地区などからふじみ野駅へのアクセスが不便な状況がある。改善の余地はないのか。

上福岡総合病院前、花の木中学校前の乗り入れを増やし、仲3丁目、福岡新田等の停留所を新設し、ふじみ野駅へのアクセスを向上させた。

狭あい地域にも入れる小型化は

現在の循環ワゴンでは入りにくい狭あい地域が多数存在する。小型車両の活用やオンデマンド方式の導入など柔軟な対応を。

地域公共交通活性化協議会では市域全体で利便性を向上できたと考えており、狭あい地域における小型化など変更を実施する予定はない。



小型車両オンデマンドバス



子ども誰でも通園制度

山田 敏夫 議員

現在、こども家庭庁では、生後6カ月から2歳の未就園児を対象に、一人当たり月10時間を上限に、保育所や認定こども園を、利用できるような新しい制度が検討されているが、本市の取り組みは。

国のモデル事業の検証結果や保育スペース、保育士の確保などの課題を踏まえて検討していきたい。

学校以外での学びの場を保障

フリースクールなどで、魅力あるまちづくりができないか。

名所づくりとなるとまとまった農地が必要で多くの農業者の賛同と協力が不可欠である。農業者の意向、意見を踏まえて考えていきたい。

農地の活用と名所づくり

農地などに菜の花やレンゲソウを植えること



春を待つ田畑



自転車通行空間の整備状況は

板倉 篤 議員

整備の進捗と今後の予定は。

令和元年度から令和4年度までに上福岡駅西口エリアで約2800m、令和5年度に市道幹線1号線の約900mを整備した。今後は上福岡駅東口エリアで進めていく予定である。



より安全な自転車通行環境を

スクランブル交差点の自転車レーン拡幅は。

福岡中央公園側歩道は広く見えるが、県管理の部分は幅員が狭く、セットバックして自転車レーンを広げることは難しいと考える。

空家問題と空家バンクの現状

空家の多いエリアとその要因は。

上福岡駅周辺地域と西部地域に多い。高度経済成長期から住み続けている世帯の高齢化により

空家化しやすいものと考えられる。

空家バンクの利活用状況と空家流通への寄与の評価は。

過去5年の実績は登録29件に対して成約28件と高い成約率である。

空家所有者へのアンケートでも関心の高さがうかがえることから今後も周知を続け空家の利活用・流通の促進に努める。



どうする学校のプール

塚越 洋一 議員



学校プールの在り方は

市内の小・中学校9校では、今年度から水泳授業を民間のスイミング施設を使って試行している。熱中症の危険や雨など天候に左右されないメリットも大きいが、教職員、保護者、児童生徒の負担軽減など課題もある。今後に向け市の考えは。

ヒアリングから成果と課題を共有し、令和6年度は5カ所の施設を利用して19校で実施する予定である。負担軽減のため、他の自治体の事例も

三芳スマートICのフル化を控えての対策

3月にはインターチェンジの工事が完成して大型車の出入りが始まり、フル化による生活道路・通学路の安全、幹線道路の渋滞を避ける車の抜け道対策などは。

半径3km以内の企業に対し、登下校時間の通行は避けるよう要請、誘導看板を設置する。抜け道として交通量が増えた場合は、関係機関事務打ち合わせの中で検討していく。



学校給食でのアレルギー対応

鈴木 宏樹 議員



卵乳が食べられなくても

アレルギー除去食の対応は。

食物アレルギーの卵乳除去食は小学校までで、現在43名に提供している。

中学校では義務教育を終えて社会に出た時に、自分の力でアレルギーを取り除いて食事ができるよう指導している。

保育の質の確保

保育の質の向上についてどのように考えているか。

保育の質を向上させるためには、主に保育内容、環境、人材の3つの観点から考えられる。保育内容としては、保育所保育指針や自己評価ガイドライン等の整備がある。また環境としては、保育活動環境や感染症対策、事故防止及び事故発生対策のガイドライン等がある。人材としては、適切な職員の配置、保育士のスキルアップのための研修や能力経験に応じた処遇改善等の取組が必要と考え、市内保育園を支援している。

公私合同認可保育所等職種の情報交換会なども行いながら保育の質を向上させていきたい。



富士見橋の交通安全対策

足立 志津子 議員

ハンパ設置の振動の影響をよく検証し、スピード抑制の安全対策を。

循環ワゴンBコース「水宮」バス停（さぎの森小学校方面）では、シルバーカーに腰かけて待つ高齢者の目の前を大きなトラックが通過する状況である。改善を。

検証結果が出たら地区での会議を開催する予定であることから、もう一度ヒアリングを考えていきたい。



富士見橋横断歩道でハンパ実験

学校給食における質の向上

近隣から異動してくる先生にも「ふじみ野市の給食はおいしい」と評判だ。維持するために力を尽くすべき。市の意向は。

教育委員会とも連携

男性高齢者の地域デビュー促進

男性の地域参加における公共施設での対応は。

施設の特徴を生かしながら、男性が参加しやすい取り組みの充実及び活動の推進を図る。